

# Designing beyond Design.

Create a Mindful Future, Together.



Japan Industrial Design Association

JIDA ANNUAL REPORT 2020-21

2020年度 JIDA事業報告書

2021年8月1日発行

発行人：公益社団法人日本インダストリアルデザイン協会

理事長：太刀川 英輔

編集・広報委員会担当理事：芝 操枝

表紙デザイン：ツバメヤ株式会社

*Tsubameya* <sup>✎</sup>

広報委員会・JIDA事務局

〒106-0032 東京都港区六本木5-17-1 AXISビル 4F

TEL:03-3587-6391 FAX:03-3587-6393

[jidasec@jida.or.jp](mailto:jidasec@jida.or.jp)

## JIDA とは

### 日本で唯一のインダストリアルデザイン全国組織

「公益社団法人日本インダストリアルデザイン協会／JIDA」は、プロフェッショナルなインダストリアルデザインに関する唯一の全国組織です。その前身は、1952年に創立された「日本インダストリアルデザイナー協会」であり、2021年に「日本インダストリアルデザイン協会」へと改変致しました。

インダストリアルデザインは、量産を前提とした工業製品の「使いやすさと美しさ」を目的とし、モノづくりに関わるデザイン領域として発展してきました。そして今日では、産業全般にわたる領域を対象とするだけでなく、その手法・意味・役割などを大きく広げています。もはやインダストリアルデザインは、従来の製品開発のみならず、人々の生活体験や価値の創造へと展開し、「社会・経済の持続的発展」と「生活文化の向上」を使命として活動しているのです。

JIDAの具体的な活動対象は、「調査・研究、セミナー、体験活動、資格付与、ミュージアム、交流」という公益6事業（※別記参照）が中心となっています。また、これらの活動とともに、会員相互の情報共有や職能支援をおこない、プロフェッショナルな能力の向上に努めています。こうした活動は、相乗的にインダストリアルデザインを深化充実させ、変化を続ける社会に貢献するものとなっています。

JIDAの組織としては、全国横断的なセンター活動と、5つの地域ごとのブロック活動により構成されています。センター活動は公益6事業を中心的に、国内外でのインダストリアルデザインの普及啓発をおこなっています。また、各ブロック活動ではセミナーやワークショップを通じて、インダストリアルデザインの価値向上と地域の活性化を進めています。

このようにJIDAは長い歴史と実績を背景として、常に社会と時代の変化に目を向け、インダストリアルデザインを通じた心豊かな未来の創造を目指して歩み続けています。

本誌は、JIDAの「2020年度の活動報告書」となるものです。

## ごあいさつ

### 理事長 田中 一雄

Tanaka Kazuo, President

### 理事・理事長活動を振り返って

先ごろ惜しくも亡くなられた浅香前理事長にお誘い頂き、私は2011年のJIDA理事選挙に立った。幸運にも当選することが出来たが、それから理事として一期、理事長として四期を務めさせて頂いた。この十年間を振り返ってみて、改めて我が身の至らなさを恥じるとともに、やり尽くせなかったことも少なからずあり、次世代の活躍に期待を寄せずにはいられない。今はただ、お世話になった皆様に心よりお礼を申し上げたいという気持ちでいっぱいである。



## Value up JIDA

十年にわたる理事及び理事長活動の中で、常にテーマとしてきたことは「Value up JIDA」であった。これは、社会におけるJIDAの存在価値の向上であると同時に、会員の皆様にとっての協会価値向上でもあった。JIDAにおいては、それまでも「Vision Quest (2010)」などで使命と役割が問われてきたが、私たちは新たに「ビジョン委員会」を設立し、今一度JIDAの価値向上に何が出来るのかを問い直し、様々な制度改革につなげていった。その中の一つに「JIDAアワード」があった。これは、デザインの向かうべき方向を、顕彰制度によって示そうとする考え方であった。現在のミュージアムセレクションにおける「ゴールドセレクション」はその結果である。勿論、ご承知のようにセレクション事業は、あくまでも「認証」であって「顕彰」ではないが、「ゴ

ールドセレクション」を設定したことによって、ミュージアムセレクションに求められる評価基準がより明確となったと考えている。なお、この事業が公益的観点から広く社会に開かれていることは、公益組織として大きな価値を持っていると言える。この他にも、企業のデザインに対する姿勢そのものを評価する「企業賞」や、将来の人材育成につなげる「学生賞」なども検討されたが、残念ながら実施には至っていない。

またそれ以外では、JIDAの社会的存在感の向上を図るために、「Webサイトの充実」や、「アニュアルレポートの発行」などの広報活動の充実も実施することが出来た。そして、交流活動的側面としては、各地域別ブロック活動とセンター委員会活動の連携を促進するために、「合同連絡会」を推進してきた。更に、国際交流にも力を入れ、WDO(the World Design Organization)総会に継続的に参加するとともに、2019年にインドのハイデラバードで開催された総会ではicsid(現:WDO)の創立メンバーとして、「名誉会員(Honorary Membership of WDO)」の称号を受けたことは、誠に喜ばしいことであった。プロダク



## 目次

|       |               |
|-------|---------------|
| 01    | JIDAとは        |
| 02    | 目次            |
| 03-04 | ごあいさつ         |
| 05    | 2020年度事業概要    |
| 06    | 組織図           |
| 07    | 内務委員会         |
| 07    | 広報委員会         |
| 08-09 | 渉外委員会         |
| 10-11 | デザインミュージアム委員会 |
| 12    | スタンダード委員会     |
| 13    | 教育委員会         |
| 14    | 職能委員会         |
| 15-16 | インハウス委員会      |
| 16    | 企画調整委員会       |
| 17    | 活動ブロック図       |

|       |         |
|-------|---------|
| 18-22 | 東日本ブロック |
| 23-24 | 中部ブロック  |
| 25    | 北陸ブロック  |
| 26-27 | 関西ブロック  |
| 28    | 西日本ブロック |



旧ロゴマーク



新ロゴマーク

## 2020年度度事業概要

インダストリアルデザインは様々な社会価値の創造をとおして、広く国民生活の質の向上に資するものである。そのため、広く社会全般と連携しながら、社会的要請に応え、国民のための社会貢献を継続的に推進するものであり、2020年度はコロナ禍に翻弄された1年ではあったが、肅々と以下の6事業を行なった。

### 1、資格付与事業

＜国民から信頼される職能の確立＞  
資格付与事業はプロダクトデザインの普及を目指し、次世代を担うデザイン学生、一般社会人、プロのデザイナーに向けたPD検定事業を実施している。2020年度はPD検定の運営体制の移管構築とプロダクトデザイン改訂版の編集出版に注力できたことで次年度への整備が進んだ。検定業務の体制移管に合わせ、PD検定のホームページを再整備した。PD検定2級向けの「プロダクトデザインの基礎」(緑本)は2500冊の増刷を行なった。「プロダクトデザイン」(赤本)は「改訂版」を3月に出版した。また経済産業省の「後援名義使用」の申請は、11月に承認が得られ、今後の広報活動に効果が期待できる。

### 2、セミナー事業

＜専門的知見の充実による社会貢献の推進＞  
各委員会やブロックにおいて様々なセミナーを開催し、インダストリアルデザインの普及啓発を推進する計画だったが、コロナウィルスの影響によって中止やリモート方式への手法変更を余儀なくされ、全体としては活動が縮小された。主な実施セミナーは以下の通り。  
(1) 美的集団向けデザインセミナー(継続事業・第2期4回シリーズの残り2回分)  
(2) 東大阪市デザインシンキングセミナー(継続事業・第2期)  
(3) 伊・トリノ IAAD 最新デザインおよび教育動向・夏季研修プロジェクト報告セミナー  
(4) 第33期報告会 JIDA インハウス女性デザイナー研究会報告セミナー  
(5) 第94回勉強会 最新3Dプリンタで生み出すCMFモデル造形と製品活用  
(6) 第95回勉強会 これからの紙使い・和紙使い  
(7) JIDA塾「上質な暮らし、豊かな時間」生活をクリエイティブに彩る暮らし方セミナー  
(8) デザイナー井戸端会議 これからのデザイナーの在り方について、討論形式のセミナー

(9) TASK2020 都内4区による中小企業支援事業で、デザイン活用セミナーを実施

### 3、体験活動事業

＜次世代人材の育成による国家基盤の充実＞  
主に若手デザイナーやデザイン系の学生を対象とした体験活動は、人材育成と交流に大きな役割を果たしている。3歳から小学生を対象にした電車をつくるワークショップは、9月6日に東京ミッドタウン・デザインハブにてリアル開催、26名の親子が参加した。毎年、日本、韓国、台湾の3カ国共催の国際学生デザインワークショップ(ISDW)は、Covid 19の影響で、全て中止となった。

### 4、ミュージアム事業

＜デザインを通じた日本文化の高度化＞  
デザインの優れた製品を選定、顕彰し、図録を作成、無償配布するセレクション事業と、それら優れた製品を収蔵・管理し、展示することでデザイン啓蒙に繋げるミュージアム事業がある。  
2020年度で22年目となるセレクション事業は、コロナ禍にもかかわらず例年通り実施された。リモートを中心とした数回の選定会により、ゴールドセレクション5点、特別選定2点を含む合計56点が選定された。そのすべての内容を148ページに及ぶ図録に編集収録し、2,300部の印刷、国内外の関係機関、図書館、大学、会員などに無償配布した。  
隔年で開催される東京バック2021内にて、パッケージデザインパビリオンを今年度もJIDAが企画運営を行なった。2021年2月24日(水)～26日(金)、東京ビッグサイト西館にて開催された。ギフトショーは、コロナの影響で秋のショーが中止となり、2月に春のショーが実施された。2021年2月3日(水)、4日(木)、5日(金)、東京ビッグサイト南展示棟南3にて2コマでJIDAブースを出展した。

### 5、調査・研究及びその普及事業

＜専門性の深化及び客観化＞  
材料や加工技術、表面処理に関する調査・研究を行ない、標準化を目指したサンプル開発・頒布事業を継続して行なっている。また、子どもや高齢者の傷害事故などの社会課題解決に向けた、産総研や消防庁などとの共同研究、知財の研究も行なっている。  
JIDA STANDARD SAMPLES 2020年度の頒布実績は、全41冊、KIDS DESIGN TOOLSは全16

セットと、どちらもコロナの影響は不明だが低調に終わった。  
産総研、消防庁などと継続的に行なっている事故予防に関する共同研究会は、例年通り6回行なった。また、三菱財団社会福祉事業・研究助成のプロジェクト(主宰：NPO法人セイフキッズジャパン山中龍宏理事長)「ペランダ等高所からの子どもの転落を予防するプロジェクト」にも参加し、月1回ペースの合同ミーティングに3名で参加した。高齢者ハンドブックの制作事業は、新しいデータを追加した新ページと修正ページの編集を行なった。日本弁理士会意匠部会との共同研究によりロイヤルティ契約書式を完成させた。

### 6、内外関係機関との交流及び協力を行う事業

＜社会貢献及びデザイン価値の拡充発展＞  
国内外の他団体と交流し情報交換を行ない、協力を構築することで、より高度な情報を得ると同時に、グローバルな発信を行なうことができるのが交流事業の目的である。  
韓国：KAID、台湾：CIDAとの国際交流事業「Asia Design Assembly (ADA)」は、3か国代表者会議をオンラインにて3回行なった。日本デザイン団体協議会(D8)との交流では、2020年度は特に連携強化を推進するため、理事長会議を複数回行なった。D8の3つの活動である、日本デザインミュージアム設立準備委員会、デザイン保護研究会、広報委員会には、JIDAからそれぞれメンバーが参加し活動を行なった。

### 7、その他共益事業

＜会員扶助及び会員支援＞  
主にフリーランスデザイナーを対象にした会員向け知財相談窓口「DPホットライン」を通年開設し、会員からの知財相談に対応している。2020年度も知財に関する相談が寄せられ、専門家が気軽に対応した。  
毎年一度、外部向け年間活動報告書として「アニュアルレポート」を編集・印刷し、広く一般に発信している。2020年度も2019年度のレポートを8月に800部印刷、内外の関係各所や全ての会員に配布した。  
コロナ対応のため、機材やソフトも含めたICTの強化が必須となり、費用も人材もその方面に多く費やされた。総会の開催方法もハイブリッド化、事務局もテレワークを推進、50%以上の在宅率を実現した。

トデザイン検定に対しては、その普及力として経済産業省からの後援を得ることも出来た。加えて、21世紀型のデザイン組織へと変革を図ることを目指して、デザイン界で活躍する会員有志による「アドバイザーコミッティ(その後ビジョンコミッティ)」の活動は、今日の「デザイン協会」への変革を推進する理念構築を担った。そして、今回の「日本インダストリアルデザイン協会」への脱皮に伴い、様々な協会活動の拡大充実を図るとともに、協会の「新VI」を策定し再出発することとなった。このように微力ながらも、会員各位並びに理事会メンバーのご協力とご尽力によって、少しでもJIDAを価値ある協会へと高めていくことが出来たのでないかと考えている。

## JIDA とは何であったのか

今改めて、1952年の「日本インダストリアルデザイナー協会」設立の発意は何であったのだろうかと思う。それは歴史を紐解けば述べられていることではあるが、私は「職能の確立」にあったと教えられてきた。これはいわゆる「職能団体」の意味とは異なっている。「職能の確立」はインダストリアルデザインの社会的使命を全うするためには、先ずはその職能が社会的に認識されなくては存在価値がないということであり、共益的価値を追求する「職能団体」の目指すものとは異なっている。インダストリアルデザインは、デザインを通じた「より良い社会の実現」をミッションとしており、その責務を果たすために職能を確立しなくてはならないという思いであったろう。こうした姿勢は、1950年代から1970年代ごろまでの様々な「デザイン会議」の内容にも色濃く表れている。私自身も、このような「インダストリアルデザインの社会的使命」を常に心の中に置いてきた。だからこそ、公共的なデザイン業務に携わるとともにicsidの理事を2007年から2011年まで務め、国際デザイン運動に積極的に参画してきた。私のJIDA理事活動は、そうした延長上にあったともいえる。今日SDGsを始めとする様々な社会課題の解決が求められているが、デザインは今まさに、その使命を果たすことが求められているのではないだろうか。

## 公益性の再確認

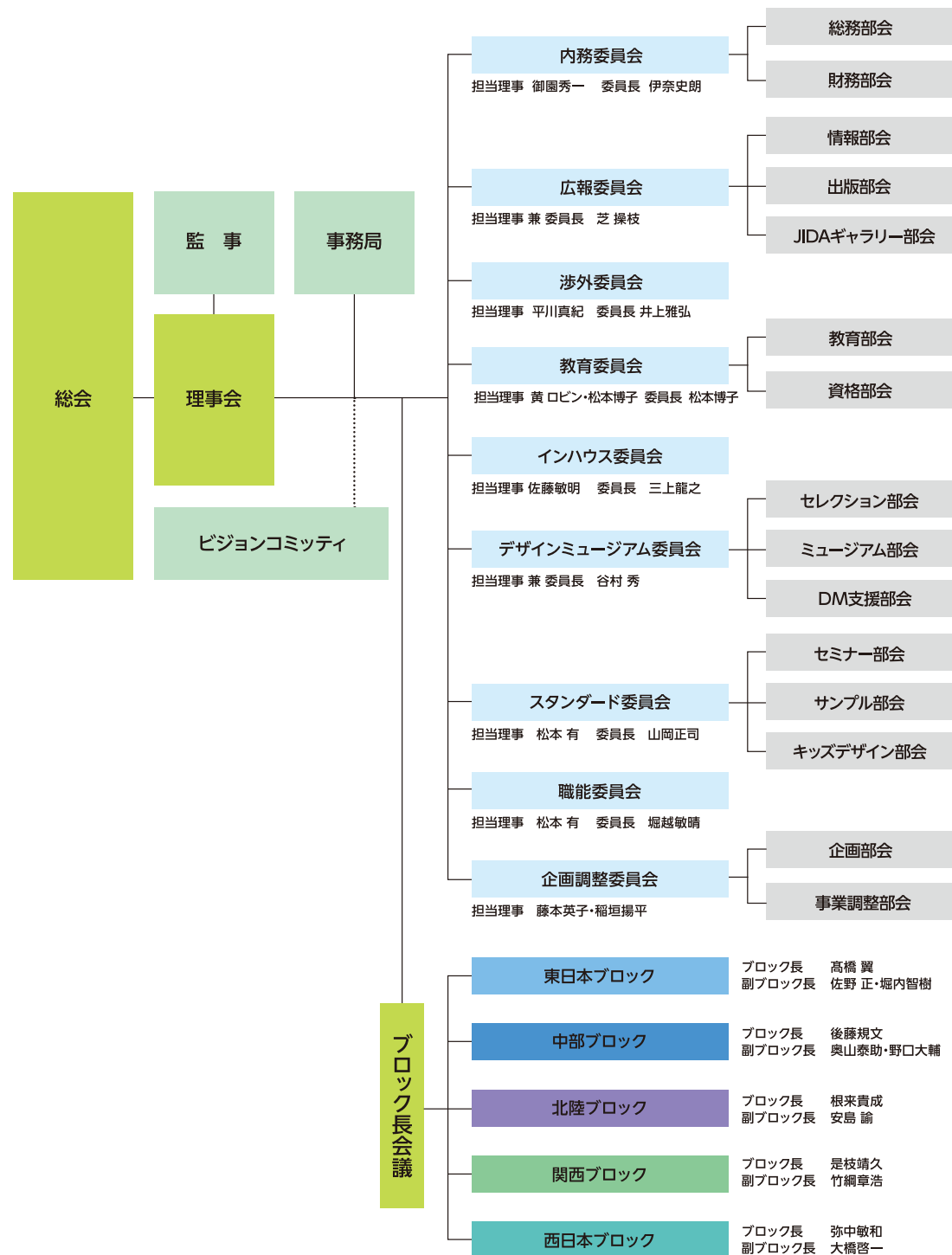
インダストリアルデザインは、歴史的にも役割的にも公共性の高い職能である。だからこそ2012年に公益認定を受け、公益社団法人日本インダストリアルデザイナー協会となったことは必然ともいえる。しかし、そこには様々な課題もあることを私たちは深く認識していたのだろうか。公益法人の究極の目的は「国民への奉仕」であり、そこには共益的な自己利益の追求は馴染まない。しかし、過去のJIDAの歴史においては共益的色彩が色濃くあったことも否めない。そのような中で、公益法人化がなされたのではないだろうか。事実、少なからぬJIDA会員の参加目的は、相互交流や業務支援への期待などであり、共益活動に軸足を置いているともいえる。しかし、こうした共益性も公益法人としての社会的信頼があればこそ成立するともいえる。まして今日は、企業活動のパーパスが「利益の極大化」では成立しない時代を迎え、「社会的価値の実現によってこそ企業が存在できる時代」を迎えている。そうであるからこそ、公益社団法人としての存在価値に今一度目を向け、自分たちの立ち位置を見直すことも必要だろう。新生なった公益社団法人日本インダストリアルデザイン協会は、このような社会課題の解決と公益性の観点からも新たな存在価値が問われているともいえる。

## 拡がるデザインの中で

言うまでもないことであるが、デザインは今、大きな拡がりの中にある。これは、従来の具体的なモノを対象とした狭義のデザインから、多様な仕組みやサービスなどの無形の価値を含む広義のデザインへの拡大である。更にこのことは、コロナ禍によるDXの劇的な進展により益々加速している。もはや20世紀に確立された社会モデルは確実に終焉し、ポストコロナを見据えた新たな社会システムが構築されつつある。このような変化と、産業社会(Industrial Society)に生きるインダストリアルデザインが無縁であることはできない。今やインダストリアルデザインは「デザイナーだけの協会」では、その社会的使命を果たせなくなっているともいえるだろう。こうした認識に立ち、「日本インダストリアルデザイナー協会」は「日本インダストリアルデザイン協会」として再出発することとなったわけである。



## 組織図



## 内務委員会

運営規約・ルール の制定・更新の提言

財務の公正運用

総務部会と財務部会が構成される内務委員会は、JIDAの円滑な運営と発展のため、運営ルールの制定・更新提言と財務の公正運用を行っている。

【総務部会】

昨年度に続き、デザイナー協会からデザイン協会へ名称変更に伴う定款や諸規程・規則(35件)の見直し作業が重要かつ大きな活動となった。作業は名称変更だけでなく、変更に伴う規程・規則の内容の再検討や定款との整合性確認など、全体を通して見直す良い機会であった。改定作業は概ね完了した。

【財務部会】

2020年度決算では、正味財産全体の前年度対比は、収入が約1240万円の減、支出は約880万円の減まで抑えたが、経常外増減額を含めた当期正味財産増減額は、約240万円の赤字決算となっ

た。コロナ禍による活動の中止、縮小が続き、赤字化回避のため当初予算の見直しをすべく、各委員会とブロックに活動実績と見通しのまとめ、及び期末に向けての収支改善努力を徹底願い、8月に予算修正を行った。しかしながらその後も事業延期で年度をまたぐなど、事業執行率が期待以下となり、この結果となったものである。

次年度は2年連続の赤字化を避けるべく、抜本的な経費削減策を実施することで予算上は赤字を避けているが、これまで収支改善に貢献してきた受託事業の終了に代わり得る受託確保等が課題となる。一方、2022年度予定のJIDA 70周年事業に備える積立は目標額に達したので終了する。

## 広報委員会

JIDA公式サイト内に会員専用サイトの開設、企業内SNSのWorkplaceの導入を行い、デジタル世界での会員の交流、情報共有を行いやすくなるための環境整備を一步進めることができた。コロナ禍においてもJIDAの活動を円滑に行える様、リモート会議やリモートセミナーなど遠隔状態での活動の支援を行った。

2021年度からの協会名称変更にもとない、VIのリニューアルデザインを行った。



【JIDA定時総会】

コロナ禍の感染防止対策のためリアルに一つの会場で会員を集めての定時総会の実施は相応しくなく、限られた人数での定時総会とした。リアル会場での参加人数を最小限とし、在宅の会員にはYoutube配信を行い、在宅理事はZOOMにて参加する、ハイブリッド総会を実施した。

【JIDA臨時総会】

協会名称変更の決議を行った。定時総会と同様にはハイブリッド形式で行った。

【JIDA-VIリニューアル】

JAGDA会長でもあるグラフィックデザイナー佐藤卓氏にデザインを依頼し、亀倉雄策氏デザインのマークは継承、JIDAの4文字ロゴ、法人名ロゴをリニューアルした。次年度より様々なアイテ

【情報部会】 部会長：塩田 英人

1、JIDA公式ホームページの拡充と改良  
会員専用サイトを新設し、情報共有をしやすいとした。  
2、会員メールの強化  
セキュリティ強化とデータベース機能強化のためメーラーアプリケーション「acmail」有料版を導入した。  
3、SNSでの情報発信の強化  
Facebook、Twitter、Instagramでの情報発信をさらに推進した。  
4、インタビュー動画アーカイブ  
コロナ禍により対面でのインタビュー及び撮影は今回は控え、次年度以降より再開する。

【出版部会】 部会長：芝 操枝

2019年度アニュアルリポートの編さん；8月に800部印刷完了し頒布した。

【ギャラリー部会】 部会長：登 豊茂男

新型コロナウイルス感染拡大のため展示企画などすべてキャンセルとなった。



定時総会ライブ配信



会員専用サイト







## ミュージアム委員会

ミュージアム委員会 担当理事・委員長  
谷村 秀



美しく豊かな生活をめざして

### 【セレクション部会】

後世に残すべき優れた製品を収集し、デザインの普及啓発活動を行う事を主に、図録の発行と毎年1月に開催するAXISギャラリーでの展覧会、そして巡回展として行われるJIDAギャラリーでの展示を計画する。しかしながら、今回は新型コロナウィルス感染症対策として社会活動の抑制に加え、同時期に緊急事態宣言が発令された事により、1月並びに次に延期とされた5月の展覧会も中止となる。なお、今回で22回目を迎えるJIDAデザインミュージアムセレクションは予定通り行われ、一般並びにJIDA会員より220点が推薦される。2回にわたる選定審査会を行い、ゴールドセレクション賞5点、セレクション賞49点と、今回より新設した「特別選定」として2点を選定する。

### 「特別選定」について

JIDAデザインミュージアム本来の活動意義に基づき、歴史を記述するに相応しいモノ（作品・製品等）を選定し、デザイン史の一端を形づくろうとするもの。その主旨に沿い、市販された製品の選定とは別に、公共物や限定生産品などを対象とした「特別選定」を設け本年は、東京2020オリンピック・パラリンピック聖火リレートーチが値するとし選定する。

展開会並びにデザインフォーラムが開催されなかった事により、デザイン開発ストーリーとしてゴールド賞の2点と、特別選定から2点の画像を紹介。

■図録「JIDAデザインミュージアムセレクション Vol.22」

助成：公益財団法人 石橋財団助成事業

2,500部発行 2021年3月末発行

配布先：国内・海外の主要図書館、美術館、大学、関係機関

### 【ミュージアム部会】

ミュージアム部会は今迄に収蔵した製品を、年間を通じて東京、長野、大阪にて巡回展、企画展、常設展と、ミュージアムを拠点とするイベント、二次資料の整備を計画。JIDAデザインミュージアム in NAGANOでのセレクション巡回展は、準備・会場設営を終えたものの、施設の感染対策不適合との判断でオープンには至らず。その中で収蔵庫内整備活動のみ感染対策を取りながら実施。

■JIDAデザインミュージアム in AXIS (常設展)

2020年3月～(年3回) 会場：JIDAギャラリー

■閉館中：JIDAデザインミュージアム in NAGANO (巡回展、企画展、常設展)

2020年3月～(年3回) 会場：JIDAデザインミュージアム1号館in信州新町

■中止：第80回巡回展「JIDAデザインミュージアムセレクションVol.22選定品」

■JIDA DM1号館ストックヤード整備(10月、11月)  
場所：長野市信州新町日原

### 【デザインミュージアム支援部会】

継続したミュージアム運営を行う為に、「JIDAデザインミュージアム支援金」参加のお願いを配信し、活動に賛同を頂ける方々からの支援金を募る。このような状況下の中、本年度も多くの企業、個人会員の皆様よりご支援を頂きましたこと御礼を申し上げます。



JIDA DESIGN MUSEUM  
SELECTION VOL.22 **GOLD**



ARAS

「ARAS」



JIDA DESIGN MUSEUM  
SELECTION VOL.22 **GOLD**



「Honda e」



JIDA DESIGN MUSEUM  
SELECTION VOL.22 **SPECIAL**





## スタンダード委員会

スタンダード委員会は、インダストリアルデザインの現場で役立つ質の高い情報とツールの提供による社会貢献を目的とし、サンプル部会、セミナー部会、キッズデザイン部会の三部会で活動している。2020年度はサンプル帳、キッズデザインツールズ共に頒布を広げることができず、低調に終わった。キッズデザイン部会は、産総研からの昨年度受託事業の追加が発生し、ほぼ計画通りの活動が行なわれた。セミナー部会はコロナの影響を受けたが、ウェビナーという新しい形式でのセミナーを確立できたことが成果として挙げられる。

### 【サンプル部会】

JIDA STANDARD SAMPLES「1」「2」「3」「4 A」「4 B」「5」以上6種類のランナップがあり、「4 A」「4 B」は好評につき増刷、「5」は予想以上に頒布数が伸び売となった。恒例となっていたデザイン学会での展示は、コロナウィルス感染症予防の観点から、予定していたデザイン学会の大会自体が中止となった。社会課題、環境対策などで変化するモノづくりに携わる方々の共通言語の1つとしてサンプル集が必要とされていると思われる。新たに「木のサンプル帳」の制作を進めている。今後もJIDAではサンプル集をより充実させながら日本のインダストリアルデザインの創造性と可能性を引き出していきたい。

### 【セミナー部会】

2003年からスタートし、継続的に行っている勉強会は、素材や加工方法等、技術とデザインの関わりを中心に、製品づくりに役立つ新しい情報、有用な情報を共有することを目的としている。感染対策に配慮し、今回はウェビナー形式で2回開催した。

1、第94回勉強会 『最新3Dプリンタで生み出すCMFモデル造形と製品活用』  
発表者：ストラタシス・ジャパン シニアセールスアプリケーションエンジニア 小林 俊亮氏  
開催日：2020年8月25日 場所：ウェビナー形式参加者：44名

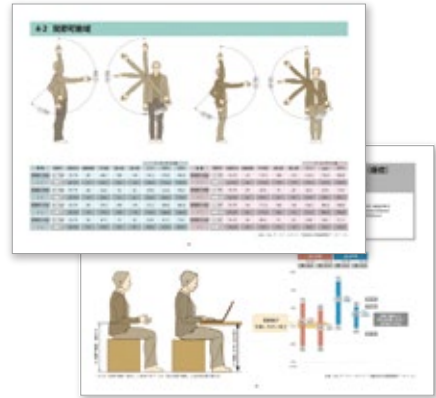
2、第95回勉強会 『これからの紙使い・和紙使い』  
発表者：ひだか紙 鎖西寛旨氏、浜田兄弟和紙製作所 浜田治氏  
開催日：2020年12月18日 場所：ウェビナー形式参加者：27名

### 【キッズデザイン部会】

産総研、消防庁との共同研究会「傷害予防のためのデータ活用に関する検討委員会」として、最近の事故の事例や分析の報告をもとにした、事故予防に関する共同研究会を合計6回（2020年4・6・8・10・12月、2021年2月）行なった。この共同研究会は、幼児の傷害事故予防を主テーマとしたキッズデザ

イン研究会として始まったが、近年は高齢者の事故予防まで対象を広げた研究を行なっている。その流れから2019年度に産業技術総合研究所からの受託事業が発生し、「高齢者製品事故防止に関するハンドブック」の原稿制作を行なった。今年度は新しいデータが追加されたので原稿の修正・追加制作を行った。また、三菱財団社会福祉事業・研究助成のプロジェクト（主宰：NPO法人セイフキッズジャパン山中龍宏理事長）である「ベランダ等高所からの子どもの転落を予防するプロジェクト」に参加。活動期間は、2020年度9月から2021年度9月まで実施で月に1回の全体ミーティングに参加した。

「高齢者製品事故防止に関するハンドブック」高齢者の身体データ



「高齢者製品事故防止に関するハンドブック」高齢者の身体機能

## 教育委員会

### プロのデザイナーとデザイン学生の学習を支援し、より格上の専門職能を目指す活動

教育委員会は、教育部会と資格部会で構成し、次世代を担うデザイン学生、一般社会人、プロのデザイナーに向けた専門教育を目的とした事業を実施している。事業内容として、学生支援事業を中心とする「教育部会」と、プロダクトデザイン（PD）資格検定を中心とする「資格部会」、二つの部会で構成される。「教育部会」では、現場の視点から学校のデザイン教育を支援し、国際視野拡大の為に国際協働作業学習のADAワークショップや、デザイン現場体験学習の為に学生交流会など、活発な活動を実施。また、「資格部会」では、現役デザイナー及び、デザイン領域を目指す学生を支援するために、教科書の編集と出版・資格認定制度など実施している。

### ■教育部会の活動

●ADA国際学生デザインワークショップ  
国際協働作業の体験学習を提供  
JIDAが韓国インダストリアルデザイン協会（KAID）と台湾工業デザイナー協会（CIDA）とADAを結成し、20年間を渡って各協会が交代で国際学生デザインワークショップ（ISDW, International Students Design Workshop）を開催している。アジアデザインの未来を担う各国の学生を集め、共通のテーマに

対してそれぞれグループでの討議を重ね、具体的な提案の策定までを行うことにより、親睦・交流を深めるとともに、学生のスキルアップと国際視野の拡大を狙いとする。

残念ながら2020年度が新型コロナの影響によって中止になったが、2021年度では海外各協会と協議の上、テーマを「思いやりアジアの気配り」としてリモート開催することをJIDAが企画。新たなワークショップ形態で展開していく。

2021/8/16～8/27の期間中にオンラインで行い、各国から73名の学生（日本国内からは13大学24名）が参加する予定。JIDAからは千葉大学や芝浦工業大学、名古屋工業大学、名古屋学芸大学などの6名の指導者を派遣し（韓国KAIDと台湾CIDAも各3名の指導者が参加）、学生へ助言と指導をする。公益事業として今回学生の参加費が無料で、発生する費用JIDAが負担。終了後も3Dプリンターで出力、ワークショップ全記録を出版する予定。今後アジアデザインの更なる発展とネットワークの形成を期待できる。

### ■資格検定部会の活動

デザイナーの職能資格認証制度と継続教育プログラムをACCREDITプロジェクトとして検討したことに始まり、プロダクトデザイン（以下、PDと省略）の普及を目指したPD検定、および公式テキ

ストの出版や普及セミナーなどを実施してきた。Covid-19の影響により対外活動は低調に推移したが、PD検定の運営体制の再構築と1級公式テキスト改訂版の編集出版に注力できたことで次年度への整備が進んだ。

●PD検定事業  
2020年度の実験者数は197名で前年比89%、合格者数127名（合格率は同64%）、2級検定対応の問題集は164冊（同116%）を頒布、例年に比べ下期の実験者減少が無く大きな落ち込みは回避できた。10月にPD検定のWebサイトをリニューアル公開して検定試験への導入が良くなったこと、11月には経済産業省の後援名義使用の承諾が得られたことなども含め、受験候補者への広報の効果と言えそうだ。

### ●関連出版事業

PD検定1級向け公式テキスト「プロダクトデザイン～商品開発に関わるすべての人へ～」(赤本)は出版して11年（9刷：2万冊）、IT化や技術の進歩、デザイン業務の拡がりに対応すべく執筆編集を推進し、内容を全面的に見直した「プロダクトデザイン改訂版～商品開発のための必須知識105」を3月に出版した。同2級向けの「プロダクトデザインの基礎～スマートな生活を実現する71の知識」(緑本)は出版して5年半、年間の販売数は1200冊ほどで教材本として定着してきており、2年分2500冊を増刷した。



協力会社の関北三にて、「木のサンプル帳」制作のミーティング。



北三の壁面に展示されている大きな木のサンプル



ワークショップ参加者へ告知用 Facebook Group



10月にリニューアルされたPD検定の1級PD検定も級の公式テキスト



## 職能委員会

創作者としての情報発信とデザインビジネスのインフラ整備

職能委員会は、社会へのインダストリアルデザインの理解向上を図り、健全なデザインビジネス環境を育むために社会、行政、企業に向けて我々が果たすことが出来る役割を訴求していくことだと考えている。特にデザインを進めるのにあたり、今日的能力の情報収集、セミナーや教育を通して能力向上を考えていくこと、デザイン成果物の権利とその保護についての情報を更新していくこと、デザインビジネスを支援する基盤の整備を必要としている。

### 1. 職能委員会 委員会活動

JIDAウェブサイト内の職能委員会ページ、なかでも契約書式のページビューが増加した。デザインビジネスの現場に対応した契約について中小企業とのデザイン開発が増えている現状から、発注者とデザイナー双方に簡易で分かりやすい契約書式が必要となり、JIDAと日本弁理士会・意匠委員会との共同研究によって制作されたデザイン契約の考え方と書式である。※2020年4～6月の集計ではページ別アクセス数では約1500件、JIDAサイト全体の2位(14%)、アクセス数の推移は、2020/4/1からの最大値が48人/日である。

職能委員会 担当理事  
松本 有



職能委員会 委員長  
堀越 敏晴



### 2. JIDAと日本弁理士(JPAA)会合同研究会

・ロイヤルティ契約書式の研究

主に中小企業とのプロダクトデザイン業務にあたり、その費用を一括で準備できないケースが少なくない。デザイン費用の分割払い、または成果報酬でもあるロイヤルティ支払い方式はニーズがあると考えられ、分かりやすく使いやすい契約書式の整備が求められている。

・弁理士会との共同研究

2020年8月27日に、今年度第一回の合同研究会を弁理士会館のリモート会議システムを使って開催。

### 3. DPホットライン

会員のための知的財産権に関わる相談窓口DPホットライン(Design Protect Hotline)を実施。

### 4. D 8 デザイン保護研究会

2020年度は新型コロナウイルスの蔓延により、デザイン8団体としての活動は、例年に比べ縮小せざるを得なくなった。しかし、コロナ後の経済活動に活用できるべく、準備を行うこととしている。

### 5. パッケージデザインパビリオン

Tokyo Pack2021 併催、第六回パッケージデザインパビリオンの企画運営を今回も行った。

ビッグサイトを使用しているため、今回はオリ

ピックの影響もあり時期が延期となり、また更にコロナの影響で開催も危ぶまれるという特殊な回となった。それにもかかわらず出展社は23社にのぼり、各社展示ブースも大型化してきておりとても見応えのあるパビリオンになったと思われる。今回はJPDAの日本パッケージデザイン大賞受賞作品展示が併設となり、また例年通り日本弁理士会の相談ブースもパビリオン内に設け(職能委員会担当)、更に来場者へ求心力が高い構成となった。コロナのため事前来場登録が必要であり来場者が例年より減る個事が予測されたが、実際のところ目的意識の高い来場者が増えて、いつもよりビジネスに繋がる確率も高く具体的な相談を受けたなど、質の高い展示会となったという声が聞かれた。



パッケージデザインパビリオンでの日本弁理士会とJIDA会員の展示ブース

パッケージデザインセミナーで講演をするJIDA会員

## インハウス委員会

インハウス委員会 担当理事  
佐藤 敏明



インハウス委員会 委員長  
三上 龍之



### 1. サマリー

インハウス委員会はコロナ禍の影響で企業見学などが実施できず、「第33期 JIDA 女性研究会成果報告会」、「欧州カーデザイン2020・伊・トリノ IAAD 最新デザインおよび教育動向・夏季研修プロジェクト報告会」のみの実施となった。

### 2. 年間活動報告

#### ●欧州カーデザイン 2020

「伊・トリノ IAAD 最新デザインおよび教育動向・夏季研修プロジェクト報告会」

・方式：ZOOM

夏季研修参加の6社若手デザイナーによるプレゼンテーションと井上教授のレクチャー。

・開催日：2020.10.21

・参加者：約39名(一般含む)

・事業概要(公益)

#### ●第33期報告会 JIDA インハウス女性デザイナー研究会報告

・方式：ZOOM

・開催日：2020.11.27

・参加者：約53名(賛助会員)

・事業概要(公益)

・テーマ：「あそび方改革」

「人生100年時代」「働き方改革」による個人の自由な時間は増加傾向を背景に、余暇を実現すべく、多くの人が心と身体を満たす「あそび」を見つけるツールを提案した。様々な分野の第一線で活躍するデザイナーを招き、各社の新しい領域での活動事例紹介を通して、これからのデザインの方向性や果たすべき役割を一緒に考える機会を企画した。

#### ●JIDA 賛助企業様への説明会

・方式：ZOOM

・開催日：2020.10.13

・事業概要(公益)

デザイン領域の拡大と広がるデザイン人材に対応するため、JIDA 名称変更と組織改革の概要説明、事前ヒアリング結果報告、フリーディスカッションを実施。

| アジェンダ                                                |        | JIDA |
|------------------------------------------------------|--------|------|
| ① はじめに (5分)                                          | ＜田中理事＞ |      |
| ● インハウスデザイナーの領域拡大/新しいJIDAの姿/名前変更の経緯について              |        |      |
| ② 結果報告 (20分)                                         | ＜佐藤理事＞ |      |
| 1. JIDAが賛助会員の満足/期待について現状を報告                          |        |      |
| 2. 2020年実績                                           |        |      |
| 3. ネットワーキング                                          |        |      |
| 4. 職能支援                                              |        |      |
| 5. 人材育成                                              |        |      |
| 6. 社会貢献                                              |        |      |
| 7. 加入団体                                              |        |      |
| ③ ZOOM対話 (30分)                                       | ＜佐藤理事＞ |      |
| ● 賛助企業との企業活動を通じて、お互いにデザイン活動を軸にクロスアップして出展者とデザイナーのつながり |        |      |
| ④ おひらき (5分)                                          | ＜佐藤理事＞ |      |
| ● 今後に向けてのQ&A                                         |        |      |



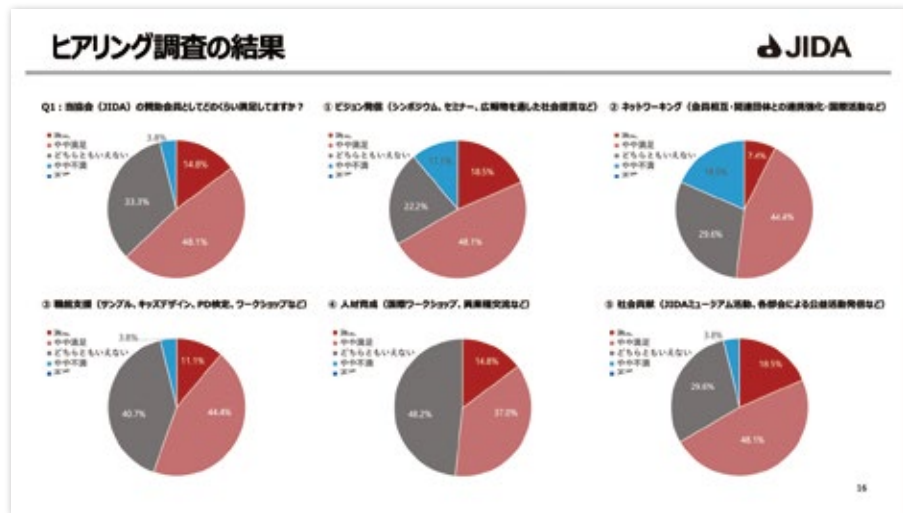


インハウス委員会

## ●JIDA 賛助企業様へのアンケート調査

- ・方式：Google フォーム
- ・開催日：2020.9.13
- ・参加者：約29社（賛助会員）
- ・事業概要（公益）

企業会員の参加価値向上のため、入会資格の拡大による活性化と法人・団体正会員の新設による活動拡大の効果を検証するWebアンケート調査を実施。企業会員の84社より、29社より回答有り。



## 企画調整委員会

【事業調整部会】 藤本 英子

## ●ブロック長会議の実施

各ブロック事業間の事業情報の交換と、調整などを3回のブロック長会議で行なったが、今回はコロナ禍のために、ほとんどのブロックイベントが実施できなかったことが報告された。しかし、オンラインのイベントがブロックに関係なくスタートした。そのイベント予定を、ブロック長会議で情報共有することで、全国的な会員参加イベントとして発展させることができた。定期的な会議として、コロナ以前からWEB上での交流を行っていたため、スムーズに意義ある会議が実施できた。

理事を中心に検討を進めてきたJIDAの名称変更について、企業への名称変更の説明機会なども、ブロックへの情報提供はブロック長会議を通じて行ない、ブロック毎に関連企業への連絡窓口としての役割をお願いするなど、ブロック活動への橋渡し役を担った。また、意見交換などで、今後の進

め方についての意識共有ができた。

## ●今後の課題等

コロナ禍、ブロック活動自体が厳しい状況であることが明確になったが、中でもブロックを超えた活動が以前よりスムーズになることが実証された。ブロックでのリアルな活動の重要性もわかりながら、しばらくはオンラインで全国を串刺しにしたイベントなどを実施することで、多くの会員および非会員の参加も得ながらのイベントで、今後さらに発展させる意義を共有できた。

【企画部会】 稲垣 揚平

●Medtec Japan 出展計画《開催延期》

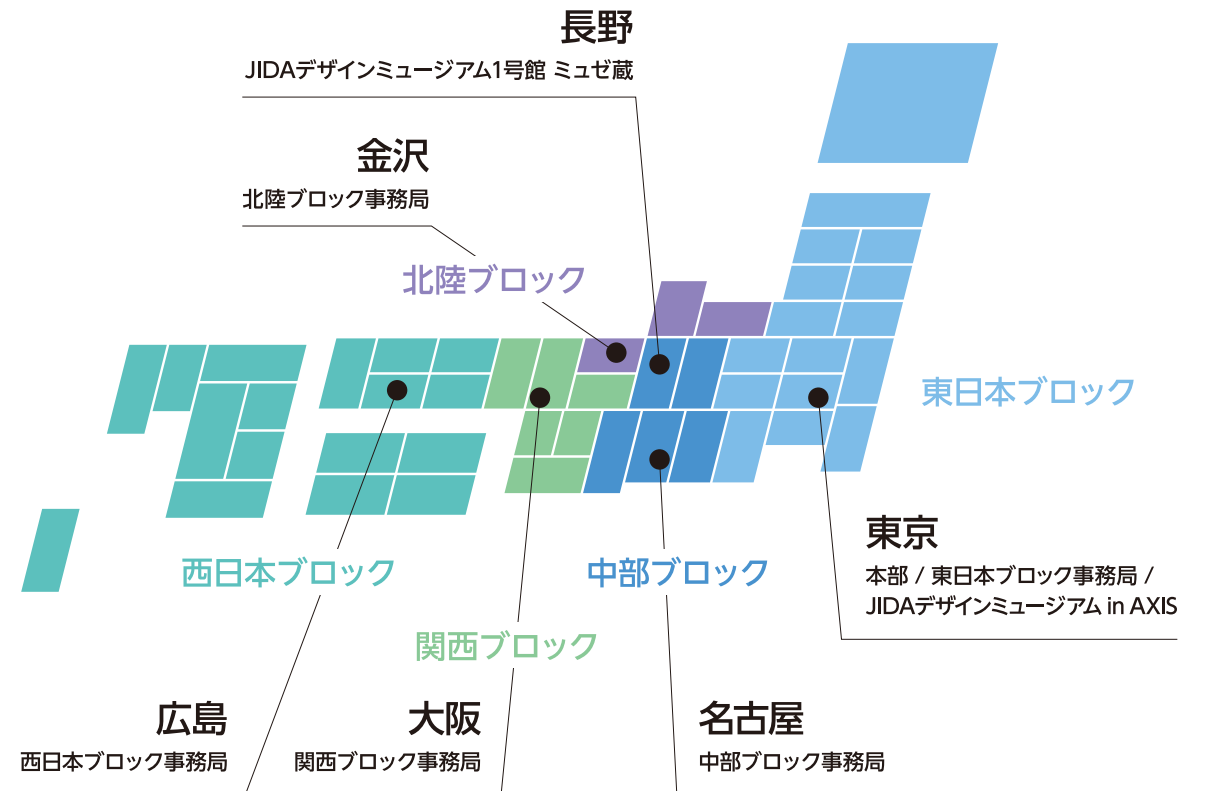
Medtecは、インフォーママーケットジャパン株式会社主催の、国内最大級の医療機器の製造・設計に関する展示会である。医療業界におけるデザインの重要性が注目される中、主催者よりMedtec2020への出展打診があり、事前アンケー

トを経て、会員の中から14社の出展が決定した。当初の2020年3月の会期は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため開催延期となり、2021年4月14日～16日の3日間にわたっての開催が改めて決定した。2021年4月の協会名変更後最初のビッグイベントとして、JIDAの認知拡大、そして医療業界との共創を実現するための第一歩として開催が待ち遠しい。

●2021年6月の協会名称変更後初の総会としてイベント企画の重要性が理事会で問われた。企画部会では、2020年12月に企画立案にあたり、次代のJIDAを担う若手会員および、JIDA外部から鈴木元氏にも参加頂きディスカッションを行い、そこで提起された事案等を、新協会へ向けたアクションプラン検討会へ情報共有しアクションプランに盛り込んだ。総会イベント企画は、同アクションプランに沿って、広報と連動して進めることとした。



## 活動ブロック図



|    |          |          |     |          |          |     |          |     |
|----|----------|----------|-----|----------|----------|-----|----------|-----|
| 全国 | 正会員      | 480人     | 東日本 | 正会員      | 298人     | 関西  | 正会員      | 95人 |
|    | 賛助会員（団体） | 82団体     |     | 賛助会員（団体） | 57団体     |     | 賛助会員（団体） | 6団体 |
|    | 賛助会員（個人） | 10人      |     | 賛助会員（個人） | 4人       |     | 賛助会員（個人） | 1人  |
|    | 準会員      | 2人       |     | 準会員      | 1人       |     | 準会員      | 1人  |
|    | 学生会員     | 18人      |     | 学生会員     | 18人      |     |          |     |
|    |          |          | 中部  | 正会員      | 52人      | 西日本 | 正会員      | 20人 |
|    |          | 賛助会員（団体） |     | 16団体     | 賛助会員（団体） |     | 2団体      |     |
|    |          |          |     |          | 賛助会員（個人） |     | 1人       |     |
|    |          |          | 北陸  | 正会員      | 13人      | 海外  | 正会員      | 2人  |
|    |          |          |     | 賛助会員（個人） | 4人       |     | 賛助会員（団体） | 1団体 |

2021年3月31日現在



## 東日本ブロック

新型コロナウイルスの影響を受け、試練の年となった今年度、これまで東日本ブロックで長年継続してきた多くのイベントが中止、延期を余儀なくされた。中でも感染対策をしっかりと行い、規模を変えながらも実施したもの、またオンラインに主軸を置き、新たな活動形態を模索しながら実施するものなど、コロナの激流に流されながらも各々が踏みとどまりながら活動を行ってきた。結果的には停滞気味となった今年一年を振り返りながら、次年度に向けた活力へと繋げたい。

### 【活動構成】

#### 東日本ブロック運営委員会

高橋 翼(ブロック長)、佐野 正(副ブロック長)、堀内 智樹(副ブロック長)、石田 聖次、河端 伸裕、塩田 英人、登 豊茂男、蓮見 孝、堀越 敏晴、吉田 晃永 以上10名

#### ●デザインスキルユニット

- ・デザイナーズスキル研究会(登 豊茂男)
- ・ライティングデザイン研究会(馬場 美次)
- ・JIDA UX研究会(佐野 正)

#### ●デザインマネジメントユニット

- ・デザインビジネス研究会(小林 浩一)
- ・デザインメーカーズ研究会(長谷川 真之)
- ・パッケージバビリオン(吉田 晃永)

#### ●デザインソーシャルユニット

- ・エコデザイン研究会(本田 圭吾)
- ・電車ワークショップ(高橋 翼)
- ・JIDA塾(高橋 翼)

### 【活動内容】

#### ●東日本ブロック運営委員会

##### JIDA TALK LIVE

担当：東日本ブロック 副ブロック長/佐野 正  
東日本ブロック・中部ブロックが企画運営したオンライン交流会「JIDA TALK LIVE」を数回にわたり開催。新たに導入されたWorkplaceを活用しながら、オンライン会議やチャット・メッセージなど交流の1つとしてスタート。リアルなイベントや交流会が開催できるに超したことはないが、世情を考慮しながら遠距離のデメリットを超えた、同じベクトルを持つデザイナー同士の情報交換・交流の場としての足がかりとなったことは、色々な意味で良かった。ブロックを跨いだ協働プロジェクトとして、今後は距離だけでなくデザインジャンルや世代を超えたオンライン交流会開催が期待できる。いずれリアルに交流する際にの下地作りにも効果的である。

##### テーマ/日時：

Vol0「JIDAアラフォーミーティングONLINE」:  
2020年06月06日

Vol1「新会員編」:2020年10月22日

Vol2「新会員紹介編」:2020年12月9日

Vol3「30代×学生編」:2021年2月13日  
参加人数：ZOOMにて数名参加+YouTubeライブ配信

場所：ZOOM

運営メンバー：佐野・高橋・塩田/東日本ブロック、後藤・小幡/中部ブロック・弥中/西日本ブロック



オンライン交流会の様子

### ●<デザインスキルユニット>

#### デザイナー井戸端会議

担当：デザイナーズスキル研究会/代表 登 豊茂男  
デザインビジネスの手段として使えるスキルを習得・実践できるようになることを目的とした場。会員・外部講師が「話題の提供」を行いながら、参加者全員で今後のインダストリアルデザイナーのあり方について話し合いながら学ぶ。第1回目をJIDAギャラリーにて定員を超える申込みがあり開催。フリーランス、メーカーのデザイン部、大学教員などが参加し、開催前に各自作成した「自己紹介」「あなたにとってのデザイナーズスキルとは？」を当日発表。デザインに従事している方々ばかりだが各々の経験値、デザインワークの環境などの違いにより、さまざまなデザインフロー、スキルがあり発表者は質問攻めにあう場面も。終了後、参加者同士が名刺交換やデザインスキルについての様々な話題が飛び交い、次の開催に向けて励みとなった。

・日時：2020年10月16日

・参加人数：16名

・場所：JIDAギャラリー

・運営メンバー：鉢呂、河端、登



井戸端会議の様子



### ●<デザインマネジメントユニット>

#### TASK事業2020

担当：デザインビジネス研究会/代表 小林 浩一  
都内の4区(台東区/荒川区/足立区/葛飾区)共催による東京TASK事務局より、中小企業のデザイン活用スキル向上の取り組みとして、デザインアドバイス事業を受託。例年、デザインセミナーと個別デザインアドバイスを実施。2020年度はコロナ禍への懸念から集会形式を改め、ビデオセミナーと個別訪問に切り替えて実施。(研究会メンバー他10余名が参加/指導事業者5社)  
JIDA公式サイトおよびTASK公式サイトに2つの動画を制作・掲載。1つは中小企業がデザインを導入するにあたり、工業デザイナーと意思疎通するための基礎知識レクチャー動画。さらにTASK参加企業の商品化成功事例をモデルにした動画を制作。両サイトに公開することでリモートでの学びを提供、中小企業のデザイン知識の向上に取り組んだ。

・日時：ビデオ収録2020年9月28日~10月2日

訪問アドバイス 2021年1月25~2月27日

・参加人数：ビデオ収録 9名 堀越/松本/塩田(広報委)/坂野/武者/吉田/小林、荒川区スタジオ北村(洋)

アドバイス：9名 堀越/松本/浅香/坂野/北村(光)/鉢呂/吉田/小林/三津井

・場所：JIDA事務局 及び 荒川区スタジオ個別アドバイス、台東・足立・荒川・葛飾区の各事業者へ訪問

・運営メンバー：堀越/松本/塩田(広報委)/坂野/武者/吉田/小林/浅香/坂野/北村(光)/三津井/鉢呂/北村(洋)



参加事業者への訪問アドバイス



JIDAサイト掲載ビデオレクチャー収録



東日本ブロック

DB研メンバー勉強会

担当：デザインビジネス研究会/代表 小林 浩一  
参加メンバーの設備や技術を学ぶ勉強会を実施。ファクトロン社設備を見学。大型3Dプリンター見学。1/1人物大まで出力できる大型プリンターやその他大型プロッターなどを見学。ファブレス活用や、Eコマース直販スキルキャッチアップの一環として貴重な学びの場となった。

- ・日時：2020年11月27日、12月4日
- ・参加人数：8名 堀越／三津井／忠嶋／北村(洋)／小林、浅香／吉田／石渡
- ・場所：テクノ FRONT 森ヶ崎 ファクトロン社 事務所 東京都大田区大森南四丁目6番15号
- ・運営メンバー：堀越／三津井／忠嶋／北村(洋)／小林／浅香／吉田／鉢呂

第91回 東京インターナショナルギフトショー春 2021JIDAブース

担当：デザインメーカーズ研究会/代表 長谷川 真之  
コロナ禍、緊急事態宣言下で開催が危ぶまれたギフトショーであったが、入場制限・入場時検温・消毒など感染防止対策をとりながら開催されて、新しいビジネスチャンスをつかむ貴重な機会となった。全体的に例年より来場者が少なく、海外バイヤー・一般客は全くと言っていい程見かけられないが、逆に来場される方は緊急事態宣言下でも重要な見本市と考えるバイヤーの方々が多数来場された。来訪者が少ない分、ひとり一人に展示品の説明を丁寧にすることができ、各社商談に繋げることができた。フジテレビ朝の情報番組、「目覚ましテレビ」からはi.Design Studioが展示した「マスク生活を快適に、マスクトレイにもなるマスクフック」

が取材班の目に留まり、コロナ禍において注目を集めるアイテムとして紹介された。同じく出展メンバーのカツマタデザインの「スリッパのようにサッと履ける指サック、フィンガースリッパ」が来場者の投票で選ばれるベストコンセプト賞に選出され表彰を受けた。来訪者の少ないギフト・ショーではあったが、2つの大きなトピックスもありJIDAとしても十分に存在をアピールすることが出来、またリアル展示会への出展メリットも手応えがあった。

- ・開催日：2021年2月3日(水)～5日(金)
- ・場所：東京ビッグサイト 南展示棟南3(2コマ出展)
- ・主催：JIDA東日本ブロック デザインメーカーズ研究会
- ・出展者:計6名(順不同) 有限会社 Kataoka Design Studio 片岡 哲

株式会社カブ・デザイン 齋藤 善子  
イヴレス株式会社 米山 凜  
カツマタデザイン 勝俣 貞治  
i.Design Studio 池田 武史  
BALIISM Japan 長谷川 真之

第6回パッケージデザインパビリオン(Tokyo Pack2021併催) 担当：東日本ブロック/吉田 晃永  
第1回目より継続している第6回パッケージデザインパビリオンの企画運営を行い、多くのデザイン会社との協働出展を開催した。ビッグサイトを使用しているため、オリンピックの影響もあり当初の開催時期が延期、また更にコロナの影響で開催も危ぶまれた特殊な回となった。それにもかかわらず出展社は23社にのぼり、各社展示ブースも大型化してきておりとても見応えのあるパビリオ

ンとなった。  
今回はJPDAの日本パッケージデザイン大賞受賞作品展示が併設となり、また例年通り“日本弁理士会の相談ブース”もパビリオン内に設け(職能委員会担当)、更に来場者へ求心力が高い構成となった。コロナのため事前来場登録が必要であり来場者が例年より減ることが予測されたが、実際は目的意識の高い来場者が増えて、例年よりビジネスに繋がる確率も高く具体的な相談を受けたなど、質の高い展示会となった。  
また同時開催の参加社や参加弁理士による連続セミナーも同様に、人数こそ賑わいが少な目であったものの、参加者がしっかりとメモを取るような姿も複数見られやはり目的意識の高さを感じられた。第6回(隔年開催：11年目)を迎えたが、今回ほど特殊な例はなく、それでありながらも開催に

ぎ着けたのは、主催者であり、当パビリオンの委託社である(公社)日本包装技術協会の皆様のご努力であり敬意と感謝を申し上げたい。次回の運営も委託予定とのこと。

- ・開催日：2021年2月24日(水)～26日(金)
- ・場所：東京ビッグサイト西館
- ・参加人数：23社(JIDA、JPDA、JAGDA会員)
- ・主催：日本包装技術協会
- ・パビリオン運営：JIDA、協賛：JPDA、JAGDA、日本デザイン保護協会、日本弁理士会
- ・協力：日本デザイン団体協議会
- ・共同運営：JIDA東日本ブロック/職能委員会

工場見学の様子



工場見学の様子



日本弁理士会ブース/JIDA会員セミナーの様子



JIDA会員セミナーの様子





東日本ブロック

●<デザインソーシャルユニット>

エコデザインワークショップ/エコデザイン展  
担当：エコデザイン研究会/代表 本田 圭吾

コロナ禍の影響を受け、3月から今期の活動について長年取り組んできたワークショップとエコ展を何らかの形で継続ができないかと模索を続けてきたが、2020年度はワークショップ並びにエコ展の開催を断念することとなった。検討経緯としてオンライン開催や、アクシスギャラリーでのプレゼンテーションイベント開催なども進め、募集案内を作るところまで来ていたが、コロナ禍との折り合いの付け方に先が見えず、研究会メンバー各々の活動意義と意欲そのものへの負担になりかねないと感じ中止の判断をした。

朗報としては、過去ワークショップ参加のOBでもある桑沢デザイン研究所卒業生の三枝さんが携わるプロジェクト「自律分散型水循環システムーWOTA BOX」が2020グッドデザイン賞大賞を受賞した。このようなエコデザイン・社会デザインの観点からも素晴らしい取り組みに、私たちの

研究会OBがプロダクトデザイナーとして参画し評価を得たことは、私たちの長年の公益活動が報われた想いである。今後は、研究会活動の成果となるOBやメンバーの取り組みを拾い集め、しっかりと評価し発信していくという事にも重点を置いていきたい。

電車ワークショップ

担当：東日本ブロック ブロック長/高橋 翼  
今年で4年目となる親子を対象としたデザインワークショップ。木材端材の組合せでカタチを考え、組み立て、色を塗り、台車と合わせて電車を作る。最終的にはブラレールに連結して走らせるので、作って遊ぶことのできるワークショップ。コロナ禍で開催が懸念されたが、会場も使用可となり対面形式で無事開催ができることとなり、26名の親子が参加をした。参加者の話を聞くと夏の子ども向けワークショップは中止になってしまったものが多く、対面型のイベントを探していたと

いう声が多数あった。今後の課題は材料となる木材の加工が困難となっており、連携がとれる工房などを探す必要がある。

- ・日時：2020年9月6日（日）
- ・場所：東京ミッドタウンデザインハブ
- ・参加者：参加親子26名

第6回 JIDA塾「上質な暮らし、豊かな時間」

担当：東日本ブロック ブロック長/高橋 翼  
過去に登壇頂いた良品計画イデー事業部の成田高俊氏をお招きし、コロナ禍においてステイホームという名のもとに家にいる時間が増えた今年、これを良い機会ととらえ「上質な暮らし、豊かな時間」をテーマに継続的に日々の生活をクリエイティブに彩る暮らし方のお話をしていただいた。  
・日時：2020年8月28日（金）  
・場所：AXISギャラリー  
・講演：株式会社良品計画 成田 高俊氏  
・参加者：14名



ワークショップの様子



塾の様子



中部ブロック長

中部ブロック

2020年度は新型コロナウイルス蔓延～非常事態宣言などにより、当初計画していたイベントのほとんどが中止となり、前半は何もできない状況であった。そんな中、7月より企画を進めていた2つの受託事業が成立し後半から始まり、中小企業者向けのデザインセミナーやデザイン相談会などを定例開催した。再びの非常事態宣言などで中止や延期になる回もあったが、オンラインを利用したイベントに切り替えるなど、試行錯誤しながらも事業を完了することができた。オンラインによるセミナー開催ではブロックの枠を超えた広い地域からの参加もあり、苦境の中でも多くの参加者を得ることができた。例年とは全く異なる事業であったが、中部ブロックの新しいスタイルとして可能性を感じさせる年度であった。

受託事業-1: OKB総研ビジネスセミナー

OKB総研(大垣共立銀行のシンクタンク)からの受託事業として、「モノづくり企業におけるデザイナーの上手な活用方法 ～構想から開発までの道筋を具体例から学ぶ～」と題して、中小企業がデザイナーと協業する事例を紹介しながら、企業が効果的に「デザインのチカラ」を取り入れる手法を3回に分けてセミナーを行った

- 第一回「初めてのBtoC商品を作る時に」
- ・2020年11月5日（木）講師：野口大輔

BtoCの商品をこれから始める人たちに向けて、野口氏が担当した案件からtoC向けの商品を作るにあたり必要な考えや準備、さらに製造業の人たちが特に見落としがちな、「なぜ作るのか」「どうやって伝えるか」「売れ始めるまでのペース配分」を紹介した。

- 第二回「産学連携を活用した商品開発」
- ・2020年11月12日（木）講師：岡田 心

産学連携とはどういうものなのかを、事例をあげて紹介。それぞれの立場で大学、学生、企業がどのようなメリット、デメリットがありそれを活かすことができるのかなど、現場で携わる者のリアルな意見として伝えることで、それぞれに可能性について感じてもらい、デザイナーとの関りを考え

てもらった。

- 第三回「BtoB企業とデザイナーの関わり方」
- ・2020年12月4日（金）講師：後藤規文

BtoB企業がものづくりにデザインをとりいれる代表的なメリットを紹介し、製品開発における中長期的なデザイン視点の必要性など、デザイナーが企業経営に関わっていく過程を具体的な事例を交えて紹介。また、ものづくりが盛んな地域(東海地方)特有の問題点を取り上げながら、デザイナーと中小企業の協業で陥りやすい課題を解説した。

受託事業-2: 技術系スタートアップ企業等支援拠点)に係る技術支援(製品化アクセラレータ)業務

名古屋工業研究所(市工研)が2020年11月から始めた新事業「Nagoya Musubu Tech Lab」に協力。この事業はFabLabを併設した多目的スペースの運営で、「テックスタートアップにあたたかい『ものづくり空間』の提供」をコンセプトに技術系スタートアップ企業などの支援拠点を目指しており、中部ブロックに関わることで、市工研の機材や技術支援といった作り手目線だけでなく、使い手や売り手などの幅広い目線がプラスされ、より魅力的な新事業が創出されるが期待されている。当初は市工研の施設を用いて多くの来場者を見込

んだイベントを計画していたが、コロナ禍の非常事態宣言などで開催方法を模索しながら、JIDAデザインセミナーをオンラインで2回開催した。想定外のオンライン開催は機材の準備や広報活動などが十分ではない形での開催となったが、遠方からの参加もあり、無事に開催できた。ただし、本来耳を傾けてもらいたい中小企業事業者の参加は少なく、課題が残る事業となった。

また、JIDA会員による対面でのプロダクトデザイン相談室を8回行ったが、こちらも相談者が集まらず苦戦。担当会員のデザイン事例紹介などのオンラインセミナーを盛り込むなど、コロナ禍での開催スタイルを模索しながらの事業となった。

●JIDAデザインセミナー

- ・2021年1月22日（金）「浜松の中小企業が持続可能なモノづくりを探索するCRP研究会」谷川憲司氏(オンラインによる開催)
- ・2021年3月12日（金）「イノベーションを起こす新価値創造はロジカルシンキング×デザインシンキングで」木村 徹氏 (オンラインによる開催)

Beyondサロン

若手デザイナーを主にした月1ペースの勉強会として多くの回数を重ねてきたこのサロンもコロナ



2021年2月21日開催の風景(会場：後藤デザインオフィス)



2021年3月12日開催のJIDAデザインセミナー(オンライン開催、Nagoya Musubu Tech Lab会場)



2020年12月18日開催の風景(会場：Nagoya Musubu Tech Lab)



2020年12月11日開催のデザイン相談&デザインセミナーの風景(会場：Nagoya Musubu Tech Lab)



## 中部ブロック

禍で開催を制限しながらも、オンラインで2回、リアルなイベントとして1回の開催ができた。3回目に開催したBeyondサロン(2021年2月21日開催)は、ゲストに林裕之氏(株式会社岐阜県商品開発研究所・代表)を迎え、野口会員のファシリテーションによるデザイン対談をライブ配信した。林氏の商品開発の事例をプロジェクトごとに自身がどう向き合い、何を目標値としながら進めていったかというプロセスを交えながら紹介した。また、開発だけでなく、価格設定や展示会などプロモーションにも参加することで、商品が市場に浸透する仕掛けなど具体的な事例を交えながらの突っ込んだ内容は思いの外、参加者からの食いつきもよく、印象的な回となった。引きこもり生活も一年になると、主催側も参加側もオンラインイベントに慣れてきた時期であったが、リアルな対談をライブ配信という少し新しい

試みも運営側の経験値が上がり、心象に残るイベントとなった。

**卒業制作展訪問**

次世代事業委員会は、2020年度もデザイン系大学卒業制作訪問(卒展訪問)を開催し、訪問先毎に優秀な作品を選定し表彰した。本年度はコロナ禍での開催となり、大学ごとに感染症対策をしながら、プレゼンテーション方法もそれぞれに工夫しながら開催した。

大同大学からはZOOMによるオンラインスタイルのプレゼンテーションをもらった後、オンライン審査会を行い、優秀作品を選出。名古屋造形大学からは、学生によるYoutubeを使ったプレゼンテーション動画配信をもらい、中部ブロック以外の会員からの投票も受けて優秀作品を選出した。スタイルの異なるオンラインプレゼンテーション

は作品に触れることができない成約があるが、動画などを使ったプレゼンテーション手法の幅が広がるメリットもある。やむを得ず中止となる大学もある中、試行錯誤のオンライン開催も交え、幅の広がった開催スタイルは新しい可能性を感じさせるものとなり、記憶に残る印象的な年度となった。2020年度は5校を訪問し、JIDA中部ブロックデザイン賞として、最優秀賞5名、優秀賞4名、特別賞4名を表彰した。

[http://www.chubu.jida.or.jp/sotuten/sotuten\\_2020\\_jidasho](http://www.chubu.jida.or.jp/sotuten/sotuten_2020_jidasho)



2020年6月13日開催のブロック総会(オンライン)



名古屋造形大学卒業制作展の学生プレゼンテーション(Youtubeによるオンライン配信)



2020年6月13日開催のブロック総会(オンライン)



名古屋工業大学の卒展訪問

## 北陸ブロック

北陸ブロックでは、地場産業のデザインのトレンド発信とデザイン教育のトレンド発信を軸に活動を行っている。2020年度はコロナ禍により、対面でのイベント活動は制限せざるを得なかった。しかし、オンラインでの可能性を探りながら、最後に有料オンラインイベントが開催できたのは大きな収穫であった。今後も新しい発信方法を模索しながら北陸のさらなる魅力創出に貢献していきたい。

### オンライン交流会

- ・日時: 2020年12月30日(土) 13:00~15:00
- ・場所: オンライン開催
- ・参加人数: 10名

実際に集まらない状況が続く中、北陸ブロックの会員を中心にオンラインでの忘年会を実施した。参加者の近況報告や今後の活動についての情報共有を行った。新しいかたちでのイベントの可能性を探りつつ、楽しく交流を深めることができた。



オンライン交流会の様子

### デザインクロストーク「ポストコロナ時代に求められるデザイナーの本質」

- ・日時: 2021/3/2(火)、18:00~20:00
- ・場所: オンライン開催
- ・ゲスト: 鈴木元(GEN SUZUKI STUDIO)

上町達也(secca inc.)

ファシリテーター: 稲垣 揚平(JIDA 理事)

参加人数: 52名

コロナ禍により新たな働き方が求められる中、フリーランスデザイナーとしての第一歩をあえて地方都市から踏み出した二人の先鋭デザイナーに登壇してもらい、今後求められるデザイナーの本質についてオンラインクロストークイベントを実施した。視聴者からの質問にも答えながら充実した内容となった。また、初めての有料オンラインイベントということもあり、配信方法など他ブロックとの連携で実施することができた。様々な面で今後のオンラインイベントへの手応えを感じることができた。

デザインクロストーク フライヤー

### デザイン教育トレンド発信「福井工業大学卒業制作展」

- ・日付: 2021年2月5日(土)~2月7日(日)
  - ・場所: 福井市美術館 アートラボふくい2階「金沢美術工芸大学卒業制作展」
  - ・日付: 2/24(水)~3/1(月)
  - ・場所: 金沢21世紀美術館 市民ギャラリーA、B「富山大学芸術文化学部卒業制作展」
  - ・日付: 2021年2月27日(土)~3月7日(日)
  - ・場所: 高岡市美術館 & 富山大学芸術文化学部校舎内
- 北陸3県を代表するデザイン教育を行っている大学の卒業制作展示会の見学会は、今年は分散見学という形で各自が開催期間中に見学するスタイルをとった。学生達の研究成果から最新の研究動向の考察を行った。

金沢美術工芸大学卒業会場(金沢21世紀美術館)





## 関西ブロック

関西ブロックでは毎月1回の定例運営委員会で、情報共有や企画の検討を行っているが、2020年度は新型コロナの影響により、例年開催している対面イベントの開催が難しく、オンラインを軸としたセミナーを企画せざるを得ない状況となった。しかしながら小規模かつ十分な感染対策で望んだイベントは好評を得ており、開催の意義を改めて感じると同時に、オンラインという地域を超えたイベントの可能性を得たのも事実である。関西ブロックの今後の課題は、今までの活動に加えて、大阪デザインセンターに委託していた事務局業務の契約終了に伴い、総務、会計などの事務管理をセンター事務局と分担して運営していかなければならないことである。

しかしそれはコロナ禍による生活様式の変化と合わせて考えると関西ブロックの変革の機会と考えることもできる。2021年度以降の新しいJIDA関西ブロック運営に皆様のお力添えを賜りたく存じます。

**デザインミュージアム委員会** 委員長：濱田 貴行  
大阪デザインセンターとの共催で「ATCエイジレスセンター見学会」を開催。対面イベント開催の厳しい中、参加人数を少数に絞り込み、万全の感染対策にて開催した。ATCエイジレスセンターは福祉用品、介護用品を展示し、見学会ではその使い方の説明のみならず、実際に使用してみる体験会ならではの有意義なイベントを開催できた。また、JIDA会員でもあり、元関西ブロック長の岡田英二氏による、福祉用品に関するセミナーも開催し、JIDA会員だけでなく一般からの参加者もあり好評を得ることができた。

**スタンダード委員会** 委員長：野村 伸介  
ものづくりに関するセミナーを企画するスタンダード委員会では、関西ならではの守るべき伝統工芸体験シリーズとして、京友禅染め体験会を開催した。創業明治26年の歴史ある工房にて友禅染の歴史、染色工程等を丁寧に説明頂き参加者は非常に興味を持っていただき、好評を得た。また体験会においても、手ぬぐい生地を実際の型を使用しオリジナリティーある作品を制作し楽しむ事ができた。

**フォーラム委員会** 委員長：深谷 友貴  
大阪デザインセンターとの共催で「津波・高潮ステーション見学会+街歩き」を開催。オプションとしてセンター理事の藤本氏の案内による近辺の大阪の歴史に縁ある場所の探訪街歩きも開催。



津波・高波ステーション



友禅染の見学と体験

## 関西ブロック

**教育委員会** 委員長：櫻井裕太  
関西4団体(KIPA/JCD/JIDA/JID)共催による「関西デザイン学生シンポジウム2020」への参加と「JIDA関西ブロック学生デザイン賞」として学生向けのデザインコンペを開催した。「関西デザイン学生シンポジウム2020」では各団体から代表となる大学生チームによるテーマに沿ったデザインの提案およびプレゼンテーションを行った。「JIDA関西ブロック学生デザイン賞」では「不便益研究所」との共催で「不便益+コミュニケーション」をテーマに全国のデザイン教育機関に向けて作品の公募を行った。テーマにちなんで、本年度は通信機器メーカーの株式会社ビクセラ様に協賛いただいた。例年通りであれば「大阪デザイン振興プラザ」との共催による「JIDA教育フォーラム」において審査結果の発表と表彰式を開催するところではあるが、新型コロナの影響を鑑みて、不便益システム研究所代表/京都大学 情報学研究科 特定教授/京都先端科学大学 教授の川上浩司氏にZOOMによるオンラインによる基調講演をおこなっていただき、学生デザインコンペの表彰及び講評をおこなった。

**JIDAサロン委員会** 委員長：川畑大助  
「メーカーズ座談会」と題し、オンラインによるサロンを3回開催した。第1回は各参加者が持ち物や自身がデザインしたプロダクトを持ち寄って紹介、会談しました。第2回は自身でデザイン及び製作した商品の販売事例を委員長の川畑氏が紹介し参加者と意見交換をおこなった。第3回目はJIDA会員であり、ニット商品の製造販売を行う、小野氏による自身の製造プロセスや製造機器の説明と専科者による意見交換をおこなった。

**職能委員会** 委員長：岩田浩司  
昨年度に引き続き、日本弁理士会(JPAA)知的財産勉強会を「デザイナーも知りたい知財ケーススタディ! 実践編」と題して対面形式にて開催した。具体的な事例の紹介を交えながら、デザイナーと弁理士が意見交換を行える有意義な勉強会であった。



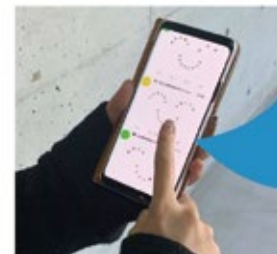
オンラインによるサロン



知財セミナー

## Fubetter ふべッター

**Twitterの便利書**  
Twitterはコミュニケーションにおいて便利である一方、やり取りに疲れてしまったり、誤読中傷の書き込みが頻発になったりと、便利だからこそその害が生まれてしまっています。そんな害を、非言語の可視化を中心に考えた不便によって、少しでも良くしようと3種類の提案をしたのがこの「Fubetter (ふべッター)」です。今現在のTwitterと同じような感覚で使用してもらうため、Twitter内の新機能として制作しました。



| # にじんダー                                                                                                                                                                                                                                                                                   | # とけッター                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | # わらッター                                                                                                                                                                                |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>不便</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○開閉経過で文字が見えなくなっていく</li> <li>○いつ投稿されたかわからない</li> </ul> <p>不便</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○表の数が増えるほど文字が潜んで見えなくなる</li> </ul> <p>益</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○傷つく言葉が見えなくなる</li> <li>○誤読中傷が書きにくくなる</li> </ul> | <p>不便</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○開閉経過で文字が見えなくなっていく</li> <li>○いつ投稿されたかわからない</li> </ul> <p>不便</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○表の数が増えるほど文字が潜んで見えなくなる</li> </ul> <p>益</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○情報の鮮度が上がる</li> <li>○溶け具合から、いつ投稿された文が推測する楽しさが増える</li> <li>○溶けることを活かした楽しみ方を考えるようになる</li> </ul> | <p>不便</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○書き込める文字数が少ない(5・7・5の計17文字)</li> </ul> <p>益</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○限られた文字数で伝える工夫をする</li> <li>○楽しい媒体になる</li> </ul> |



## 西日本ブロック

西日本ブロック ブロック長  
弥中 敏和



おそらく他のブロック同様、2020年も企画はあれど催事の開催が抑制された年となった。前年のレポートではかろうじて報告できた「カベテン」の出張展示も、この年は母体となる催事自体が直前に中止となり、当ブロックでは貴重なJIDA広報/交流の場も逃してしまった。

一方で、期待されていたオンラインでのブロック交流促進は、参加者の相互努力で定期的開催され、着実に実績を重ねていると感じられる。全ての会員が集える環境が理想ではあるものの、遠隔ブロック同士がこれまでにないかたちで「顔が見える」交流が行われることに更なる期待を寄せたい。

前述の出張カベテンは叶わなかったが、同素材の有効活用として地元デザイン専門学校での展示検討につなげている。学校教員曰く、個々の内容も全体のバラエティも豊かでプロダクト学生に限らず良い刺激になる、とのこと。デザイン協会と改まった今、コンテンツの充実も含めて再活用に協力できるように取り組みたい。

